鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（217）
国道270号（宮崎バイパス）道路改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書３

# 中津野（なかつの）遺跡

## 低地部・低湿地部編

## 第１分冊

（南さつま市金峰町）

2022年３月

鹿児島県立埋蔵文化財センター

るが，かつて村原渡口と呼ばれる渡し場であった。また，大正３（1914）年には，南薩鉄道（鹿児島県唯一の私鉄）の伊集院－加世田間が開通している。南薩鉄道は枕崎市から日置市伊集院を経由し，国鉄線と繋がり鹿児島市と連絡していた。大正３（1914）年に始まり，昭和58（1983）年の豪雨災害の影響を受けて翌年廃線となっている。第二次世界大戦では，加世田の唐仁原・高橋に，陸軍飛行戦隊知覧分遣隊の万世基地がおかれ，戦争末期に特別攻撃隊の出撃基地となっていた。

## 第３節　事業路線内遺跡の概要

国道270号線は鹿児島県枕崎市からいちき串木野市に至る一般国道であり，南さつま市金峰町の一部区間に約4.5kmの宮崎バイパス改築工事を計画した。この計画一体は，周知の埋蔵文化財包蔵地であり，中津野遺跡，小中原遺跡，市薗遺跡が所在している。小中原遺跡は平成元年～５年度に，市薗遺跡は平成８年度に当時の金峰町教育委員会が発掘調査を実施している。

平成15年度の分布調査の結果，新たに南下遺跡，田布施遺跡の所在が判明した。田布施遺跡については，平成18年1月30日に確認調査を行い事業区域内については遺物包含層が削平されていた。発掘調査を行った４遺跡の概略は，第１表にまとめた。。

**【引用・参考文献】**


橋口　亘　1999「薩摩出土の清朝磁器」『貿易陶磁研究』19号　日本貿易陶磁学会

鹿児島大学総合研究博物館　2009「薩摩加世田奥山古墳の研究」『鹿児島大学総合研究博物館研究報告』No.4

鹿児島国際大学　2008「鹿児島県　高橋貝塚の学術調査－薩摩半島西部に所在する弥生時代の墓地」鹿児島国際大学考古学研究室

鹿児島県教育委員会

1977『指江・横峯・中之峯・上焼田遺跡』埋蔵文化財発掘調査報告書（5）

1991『小中原遺跡』埋蔵文化財発掘調査報告書（57）

2006『先史古代の鹿児島』資料編

鹿児島県立埋蔵文化財調査センター

2005『白糸原遺跡』埋蔵文化財発掘調査報告書（86）

2007『上水流遺跡１』埋蔵文化財発掘調査報告書（113）

2007『持躰松遺跡』埋蔵文化財発掘調査報告書（120）

2008『上水流遺跡２』埋蔵文化財発掘調査報告書（121）

2009『上水流遺跡３』埋蔵文化財発掘調査報告書（136）

2010『芝原遺跡１』埋蔵文化財発掘調査報告書（149）

2010『上水流遺跡４』埋蔵文化財発掘調査報告書（150）

2011『南下遺跡』埋蔵文化財発掘調査報告書（157）

加世田市教育委員会

1985『上加世田遺跡１』埋蔵文化財発掘調査報告書（3）

1987『上加世田遺跡２』埋蔵文化財発掘調査報告書（4）

1995『平田尻遺跡・祝原遺跡』埋蔵文化財報告書（11）

1995『干河原遺跡』埋蔵文化財発掘調査報告書（12）

2002『春ノ山遺跡』加世田市埋蔵文化財報告書（22）

金峰町教育委員会

1978『阿多貝塚』埋蔵文化財発掘調査報告書（1）

1998『上水流遺跡－第１次調査－』埋蔵文化財発掘調査報告書（9）

2005『下堀遺跡』金峰町埋蔵文化財報告書（20）

南さつま市教育委員会

2015『上加世田遺跡』南さつま市埋蔵文化財報告書（10）

2017『市内遺跡２』南さつま市埋蔵文化財報告書（11）

第２図　国道270号関連遺跡位置図

中津野遺跡低地部全景　東から野間岳を望む

舷側板

Ⅲ類土器集合

Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ類土器集合

# 序　　文

この報告書は，国道270号（宮崎バイパス）改築工事に伴って，実施した中津野遺跡の発掘調査の記録です。途中中断はあったものの平成18年度に開始された発掘調査は９か年にわたって実施され，平成29年度に終了しました。調査対象区域の地形は標高30m近い台地と標高10m以下の低地・低湿地に分かれることから，令和２年３月には台地部分の報告書を刊行し，本年度は低地・低湿地部分の報告書を刊行することになりました。

中津野遺跡は，南さつま市金峰町に所在する遺跡で，本県の考古学史に残る重要な遺跡です。昭和25年，河口貞徳氏が調査成果を発表した弥生時代から古墳時代に位置づけられる「中津野式土器」の標式遺跡です。

本報告書では，低地・低湿地部分で確認された縄文時代・弥生時代・古墳時代・古代・中世・近世の遺構・遺物を掲載しています。特に，低湿地部分で検出した土木遺構は中世の土木技術の一端を伺い知る成果となりました。また，日本でも最古級の資料となる弥生時代前期の舷側板も出土し，さらに，縄文時代後期の土器が大量に出土しています。これらの遺構・遺物等の調査成果は，南九州の当該時期を考える上で貴重な資料を提供できたと考えています。

これらの資料が県民の皆様をはじめとする多くの方々に活用いただき，埋蔵文化財に対するご理解をいただくとともに，文化財の普及・啓発の一助になれば幸いです。

最後に，調査を実施するにあたりご協力をいただいた地域住民の方々，県土木部道路建設課，南さつま市教育委員会をはじめとする関係機関の方々に厚くお礼申し上げます。

令和４年３月

鹿児島県立埋蔵文化財センター
所　　長　　中　原　一　成

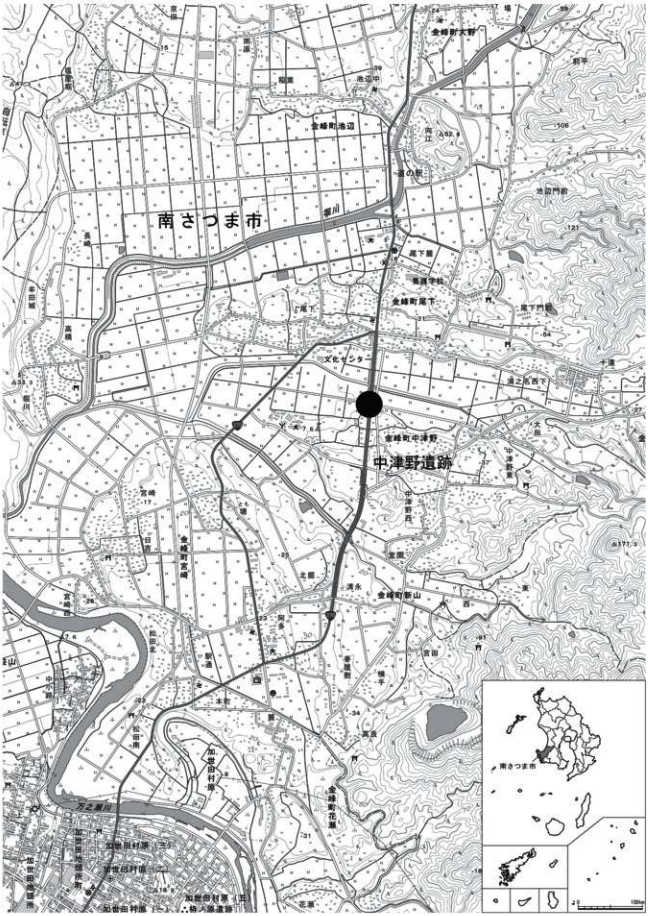
# 報 告 書 抄 録

| | |
|---|---|
| ふ り が な | なかつのいせき　ていちぶ・ていしっちぶへん |
| 書　　名 | 中津野遺跡　低地部・低湿地部編 |
| 副　書　名 | 国道270号(宮崎バイパス)道路改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(3) |
| シリーズ名 | 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 |
| シリーズ番号 | 第217集 |
| 編 集 者 名 | 鮫島えりな　倉元良文　湯場崎辰巳 |
| 編 集 機 関 | 鹿児島県立埋蔵文化財センター |
| 所　在　地 | 〒899-4318　鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森2番1号　TEL　0995-48-5811 |
| 発 行 年 月 | 2022年3月 |

| 所収遺跡名 | 所在地 | コード | | 北緯 | 東経 | 発掘期間 | 発掘面積(㎡) | 発掘原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 市長村 | 遺跡番号 | | | | | |
| 中津野遺跡 | 鹿児島県<br>南さつま市<br>金峰町<br>中津野 | 46220 | 220-218<br>(旧35-15) | 31°<br>27′<br>0″ | 130°<br>20′<br>37″ | 確認・本調査<br>2006.7.3～2006.12.27<br><br>本調査<br>2007.5.7～2008.2.27<br>2008.9.1～2009.2.25<br>2009.10.4～2010.2.24<br>2013.6.5～2013.10.31<br>2014.8.4～2014.12.24<br>2015.11.2～2016.3.25<br>2016.11.1～2017.3.15<br>2017.5.15～2018.3.16 | 7,800<br><br>4,700<br>7,500<br>5,260<br>3,900<br>410<br>2,100<br>1,400<br>9,300 | 国道270号(宮崎バイパス)道路改築工事に伴う記録保存調査 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主要な遺構 | 主要な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 中津野遺跡 | 散布地 | 縄文早期 | | 塞ノ神式土器 | |
| | 散布地 | 縄文前期 | | 曽畑式土器, 轟式土器 | |
| | 散布地 | 縄文中期 | | 春日式土器, 阿高式土器 | |
| | 集　落 | 縄文後期 | 集石2基, 土坑3基,<br>埋設土器1基,<br>遺物集中10か所,<br>集積遺構1基, 特殊遺構1基 | 磨消縄文系土器(福田K2式, 小池原下層式, 小池原上層式, 鉢崎式), 宮ノ迫式土器, 岩崎上層式土器, 南福寺式土器, 出水式土器, 指宿式土器, 松山式土器, 市来式土器, 丸尾式土器, 円盤形土製品, 土製品, 打製石鏃, 石錐, 尖頭器, 異形石器, 石匙, スクレイパー, 石核, 磨製石斧, 擦切石器, 打製石斧, 磨石・敲石, 礫器, 石皿・台石, 軽石製品, 石製品 | |
| | 散布地 | 縄文晩期 | | 黒川式土器 | |
| | 集　落 | 弥生 | 竪穴建物跡5軒, 集石1基, 土坑17基, 柱穴 | 夜臼式土器, 刻目突帯文土器, 高橋式土器, 板付式土器, 入来式土器, 管玉, 磨製石鏃, 石包丁, 石錐, 柱状片刃石斧, 木製品(蛾眉板・梯子・農具など) | |
| | 散布地 | 古墳 | 溝状遺構1条 | 成川式土器(中津野式土器・東原式土器), 木製品(鳥形製品など) | |
| | 散布地 | 古代 | | 土師器, 須恵器, 木製品(曲物) | |
| | 集　落 | 中近世 | 掘立柱建物跡7棟, 土坑13基, 炉跡2基, 溝状遺構19条, 柱穴5基, ピット1019基, 足跡3か所, 土木遺構 | 土師器, 青磁, 白磁, 青花, 古瀬戸, 備前焼, 常滑焼, 東播系須恵器, 樺万丈産須恵器, 瓦質土器, 薩摩焼, 染付, 木製品(杭, 縄, 曲物), 石鏃, 砥石 | |

| | |
|---|---|
| 要　　約 | 本遺跡は, 金峰山地中岳の北西麓から延びる標高約30mの舌状台地（中津野台地）上と境川の氾濫により形成された沖積地に立地する, 旧石器時代～近世にかけての複合遺跡である。地形によって舌状台地上の台地部と沖積地に位置する低地・低湿地部の２地点に分けられる。本書では, 低地部・低湿地部分の報告をおこなう。<br>縄文時代後期の集石, 埋設土器, 遺物集中, 加工軽石出土, 弥生時代前期の竪穴建物跡, 土坑, 中近世の掘立柱建物跡や炉跡等, 土木遺構等の当時の生活をうかがえる遺構を検出した。<br>また, 縄文時代後期～近世までの各時代の土器や石器などが出土した。特に縄文時代後期の指宿式土器や市来式土器, 弥生時代早期の刻目突帯文土器は多量に出土しており, 土器型式を考える上で重要な資料となる。また, 弥生時代に該当する船材の一部（蛾眉板）が出土しており, 当時の外部との交流や船の構造を考える上で, 貴重な資料である。 |




遺跡位置図(1:25000)

# 例　　言

1　本書は，国道270号（宮崎バイパス）改築工事に伴う中津野遺跡（低地部・低湿地部）の発掘調査報告書である。

2　本遺跡は，鹿児島県南さつま市金峰町中津野に所在する。

3　発掘調査は，鹿児島県土木部道路建設課の依頼を受け，鹿児島県立埋蔵文化財センターが実施した。

4　発掘調査は，平成18～21・25～29年度に，整理・報告書作成作業は，平成24・26・31（令和元）～令和3年度に鹿児島県立埋蔵文化財センターで実施した。

5　掲載した遺構番号は通し番号とし，本文・挿図・表・図版の番号は一致する。

6　掲載した遺物の番号は分冊毎の通し番号とし，分冊毎に本文・挿図・表・図版の番号は一致する。

　なお，第1分冊は「1」から，第2分冊は「1001」から遺物番号を付した。

7　本書で用いたレベル数値は海抜絶対高で，方位は磁北である。

8　遺構の埋土や土器の色調等は，「新版標準土色帖」（1970年度版，農林水産省農林水産技術会議事務局監修）に基づく。

9　発掘調査における効率化を図るため，平成29年度に測量業務の一部を（株）埋蔵文化財サポートシステムに委託した。

10　空中写真撮影は平成20年度と28年度に（有）スカイサーベイ九州に，平成29年度に（株）ふじたに委託した。

11　遺構図等の作成は，大保秀樹・倉元良文・鮫島えりなが整理作業員の協力を得て行った。

12　掲載遺物の実測・拓本・トレースは，鮫島・湯場崎辰巳・横手浩二郎が整理作業員の協力を得て行った。

13　掲載遺物の写真撮影は，鹿児島県立埋蔵文化財センターの写場において西園勝彦・鮫島が行った。

14　整理作業の効率化を図るため，遺構図の作成等及び遺物の実測等の一部について（株）パスコ，（株）イビソク，（株）島田組，（株）九州文化財研究所に委託した。

15　放射性炭素年代測定や樹種同定の自然科学分析について，パリノ・サーヴェイ（株），（株）加速器分析研究所，（株）吉田生物研究所，（株）古環境研究センター，（株）パレオ・ラボに委託した。

16　本製品保存処理は，鹿児島県立埋蔵文化財センターで行い，一部は（株）吉田生物研究所と（株）東都文化財保存研究所へ委託した。

17　本書の編集は，鮫島・倉元が担当した。

18　本書の執筆の分担は次のとおりである。

| | | |
|---|---|---|
| 第1～3章 | | 上浦・倉元 |
| 第4章 | 第1節 | 鮫島・倉元 |
| | 第2節 | |
| | （土器・木製品） | 鮫島・倉元 |
| | （石器） | 湯場崎 |
| 第5章 | 第1節 | 鮫島・倉元 |
| | 第2節 | |
| | （土器・木製品） | 鮫島・倉元 |
| | （石器） | 湯場崎 |
| 第6章 | 第1節 | 前迫亮一 |
| | 第2節 | |
| | （土器） | 鮫島・前迫・倉元 |
| | （土製品） | 宮崎大和 |
| | （石器） | 湯場崎 |
| 第7章 | | 鮫島・湯場崎 |
| 第8章 | | 鮫島・湯場崎 |
| 第9章 | | 鮫島・倉元・湯場崎 |

19　本書に係る出土遺物及び実測図・写真等の記録は，鹿児島県立埋蔵文化財センターで保管し，展示・活用を図る予定である。遺物の注記等で用いた記号は「ナカツノ」である。

20　遺物は，年度毎に遺物番号が付してあったため，重複があった。また，平成28年度は，調査地点毎に番号を付して調査を行った。そこで，混乱が生じないように整理作業においては，再度1番から番号を振り直した。調査時の遺物番号は，掲載しなかった遺物とともに遺物番号変更台帳を作成し，保管してある。

**遺物番号変更新旧対応表**

| 年度 | 調査時の遺物番号 | 整理作業の新遺物番号 |
|---|---|---|
| 18～21 | 1～10,990 | 1～10,990 |
| 25 | 1～11,236 | H25．1～H25．11,236 |
| 26 | 1～353 | 20,001～20,353 |
| 27 | 1～5,313 | 30,001～35,313 |
| 28 | 市道A<br>1～1,345 | 40,001～41,345 |
| | 市道B<br>1～1,088 | 42,001～43,088 |
| | C地点<br>1～2,411 | 44,001～46,411 |
| | D地点<br>1～33 | 46,412～46,444 |
| 29 | 1～15,423 | 100,001～115,423 |

# 凡　例

1　本報告書掲載の調査範囲図・遺構配置図・遺物出土状況図等は１グリッドが10m四方である。

2　本報告書掲載の遺構・遺物の縮尺は，基本的に以下のとおりである。ただし，遺構の規模や遺物の大きさ・形状に応じて縮尺が異なる場合には，各図に提示してあるので参照していただきたい。

【遺構】

| 遺構名 | 縮尺 |
|---|---|
| 掘立柱建物跡 | 1/60 |
| 竪穴建物跡 | 1/40 |
| 柱穴 | 1/20 |
| ピット | 1/20 |
| 炉跡 | 1/40 |
| 集石 | 1/20 |
| 土坑(中近世) | 1/40 |
| 土坑(縄文時代) | 1/20 |
| 溝状遺構 | 1/120 |
| 足跡 | 1/80 |
| 土木遺構(道跡・暗渠) | 1/40 |
| 遺物集中 | 1/20 |
| 集積遺構 | 1/20 |
| 特殊遺構 | 1/20 |

【遺物】

| 遺物名 | 縮尺 |
|---|---|
| 土器・磁器・陶器 | 1/3 |
| 土器(縄文時代後期・晩期) | 1/4 |
| 土器(縄文時代早期～中期) | 1/3 |
| 土製品 | 1/2 |
| 杭 | 1/8 |
| 縄 | 1/4 |
| 木製品 | 1/4・1/5 |
| 木製品(舷側板) | 1/8 |
| 石鏃・石核 | 1/1 |
| 石斧 | 1/2・1/4 |
| 剥片石器 | 1/1・1/2・1/4 |
| 礫石器 | 1/3・1/4 |
| 軽石加工品 | 1/2・1/4 |
| 石皿・台石 | 1/4 |
| 石製品 | 1/2 |
| 剥片 | 1/2・1/4 |

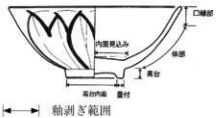
3　観察表の表記凡例は，次の通りである。

(1)「法量」において括弧内に記載してある数値は，復元径の値である。

(2)「胎土」における記号の表現は，次のとおりである。

□・・・微量含む　　△・・・少量含む
○・・・含む　　◎・・・多量含む

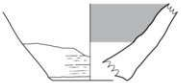
4　本書で用いた陶磁器の表現は，次のとおりである。




5　本書で用いた土器等の網掛けの表現は，以下のとおりである。

スス付着

炭化物付着

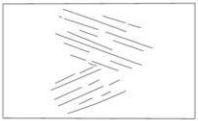


赤色顔料・朱付着

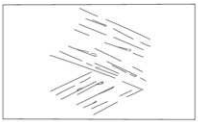
丹塗り

6　本書で用いた土器の表現は，次のとおりである。

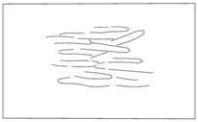
ナデ



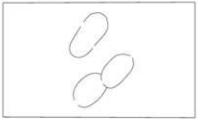
ケズリ



ミガキ



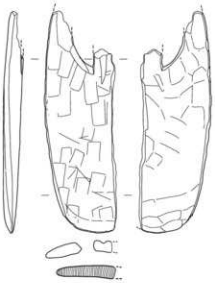
指頭圧痕



条痕

7　本書で用いた木製品の表現は，次のとおりである。

チョウナ痕



8　本書で用いた石器の表現は，次のとおりである。

磨り面

# 総　目　次

【第１分冊】
巻頭図版１・２・３・４
序文
報告書抄録
遺跡位置図
例言・凡例
目次
第１章　発掘調査の経過
　第１節　調査に至るまでの経緯
　第２節　確認調査・本調査
　第３節　整理・報告書作成
第２章　遺跡の位置と環境
　第１節　地理的環境
　第２節　歴史的環境
　第３節　事業路線内遺跡の概要
第３章　調査の方法と層序
　第１節　調査の方法
　第２節　層序
第４章　古代～近世の調査
　第１節　遺構
　第２節　遺物
第５章　縄文時代晩期～古墳時代の調査
　第１節　遺構
　第２節　遺物
【第２分冊】
目次
第６章　縄文時代早期～後期の調査
　第１節　遺構
　第２節　遺物（土器・土製品等）
　第３節　遺物（石器・石製品）
【第３分冊】
目次
第７章　木製品保存処理
第８章　自然科学分析
第９章　総括
写真図版

# 第　１　分　冊　目　次

巻頭図版１・２・３・４
序文
報告書抄録
遺跡位置図
例言・凡例
目次
第１章　発掘調査の経過
　第１節　調査に至るまでの経緯 …… 1
　第２節　確認調査・本調査 …… 1
　第３節　整理・報告書作成 …… 4
第２章　遺跡の位置と環境 …… 9
　第１節　地理的環境 …… 9
　第２節　歴史的環境 …… 9
　1　旧石器時代 …… 9
　2　縄文時代 …… 9
　3　弥生時代 …… 9
　4　古墳時代 …… 10
　5　古代 …… 10
　6　中世 …… 10
　7　近世 …… 10
　8　近現代 …… 10
　第３節　事業路線内遺跡の概要 …… 11
第３章　調査の方法と層序 …… 16
　第１節　調査の方法 …… 16
　1　発掘調査の方法 …… 16
　2　遺構の認定と検出方法 …… 16
　3　整理作業・報告書作成作業の方法及び内容 …… 17
　第２節　層序 …… 17
第４章　古代～近世の調査 …… 27
　第１節　遺構 …… 27
　1　掘立柱建物跡 …… 27
　2　柱穴 …… 39
　3　ピット …… 39
　4　炉跡 …… 44
　5　土坑 …… 46
　6　溝状遺構 …… 57
　7　足跡 …… 72
　8　土木遺構 …… 72
　（1）遺跡 …… 72
　（2）暗渠 …… 86

第２節　遺物 …… 94
１　遺物の出土状況及び分類方法 …… 94
２　近世 …… 94
（１）磁器 …… 94
（２）陶器 …… 94
３　中世 …… 98
（１）土師器 …… 98
（２）輸入磁器 …… 98
（３）国内産陶器 …… 101
（４）中世須恵器 …… 101
（５）瓦質土器 …… 101
（６）木製品 …… 104
（７）石製品 …… 104
４　古代 …… 104
（１）土師器 …… 104
（２）黒色土器 …… 104
（３）須恵器 …… 104
（４）木製品 …… 109
第５章　縄文時代晩期～古墳時代の調査 …… 113
第１節　遺構 …… 113
１　古墳時代の遺構 …… 113
２　弥生時代の遺構 …… 119
（１）竪穴建物跡 …… 119
（２）集石１号 …… 124
（３）土坑 …… 124
第２節　遺物 …… 140
１　概要 …… 140
２　古墳時代の遺物 …… 140
（１）土器 …… 140
（２）木製品 …… 145
３　弥生時代の遺物 …… 145
（１）土器 …… 145
（２）土製品 …… 170
（３）木製品 …… 170
（４）石器 …… 173
４　縄文時代晩期の遺物 …… 176
（１）土器 …… 176

# 挿　図　目　次

第１図　調査区全体範囲図 …… 8
第２図　国道270号関連遺跡位置図 …… 11
第３図　中津野遺跡周辺地形分類図 …… 12
第４図　上空から見た中津野遺跡周辺地形 …… 12
第５図　周辺遺跡地図 …… 14
第６図　低地・低湿地部調査範囲 …… 19
第７図　土層断面図（１） …… 20
第８図　土層断面図（２） …… 21
第９図　土層断面図（３） …… 22
第10図　土層断面図（４） …… 23
第11図　土層断面図（５） …… 24
第12図　土層断面図（６） …… 25
第13図　土層断面図（７） …… 26
第14図　掘立柱建物跡・柱穴・ピット（Ⅱ層）配置図 …… 28
第15図　ピット（Ⅲ層以下検出）配置図 …… 29
第16図　炉跡・土坑・溝状遺構配置図 …… 30
第17図　足跡・土木遺構配置図 …… 31
第18図　掘立柱建物跡１号 …… 32
第19図　掘立柱建物跡２・４号 …… 33
第20図　掘立柱建物跡３号 …… 34
第21図　掘立柱建物跡５号 …… 35
第22図　掘立柱建物跡６号 …… 36
第23図　掘立柱建物跡７号 …… 37
第24図　掘立柱建物跡５号出土遺物 …… 38
第25図　柱穴 …… 40
第26図　ピット …… 41
第27図　ピット出土遺物（１） …… 42
第28図　ピット出土遺物（２） …… 43
第29図　炉跡１・２号 …… 45
第30図　Ⅰ類土坑及び出土遺物 …… 46
第31図　Ⅱ類土坑（１）及び出土遺物 …… 48
第32図　Ⅱ類土坑（２）及び出土遺物 …… 49
第33図　Ⅲ類土坑（１） …… 50
第34図　Ⅲ類土坑（２） …… 51
第35図　Ⅲ類土坑出土遺物 …… 52
第36図　Ⅲ類土坑（３）及び出土遺物 …… 53
第37図　Ⅲ類土坑（４） …… 54
第38図　Ⅲ類土坑出土遺物 …… 55
第39図　溝状遺構１・２号及び出土遺物 …… 56
第40図　溝状遺構３・５・６号及び出土遺物 …… 58
第41図　溝状遺構４号及び出土遺物 …… 59
第42図　溝状遺構７・８号 …… 60
第43図　溝状遺構７号出土遺物（１） …… 62
第44図　溝状遺構７号出土遺物（２） …… 63

第45図　溝状遺構７号出土遺物（３）…… 64
第46図　溝状遺構７号出土遺物（４）…… 65
第47図　溝状遺構７号出土遺物（５）…… 66
第48図　溝状遺構８号出土遺物（１）…… 67
第49図　溝状遺構８号出土遺物（２）…… 68
第50図　溝状遺構９～12号及び出土遺物…… 70
第51図　溝状遺構13～16号及び出土遺物…… 71
第52図　溝状遺構17～19号及び出土遺物…… 73
第53図　足跡・土木遺構位置図…… 75
第54図　足跡１・２…… 76
第55図　足跡３…… 77
第56図　道跡１実測図（１）…… 78
第57図　道跡１実測図（２）…… 79
第58図　放射性炭素年代測定試料採取地点…… 80
第59図　杭等出土地点…… 81
第60図　道跡関連遺物（１）…… 82
第61図　道跡関連遺物（２）…… 83
第62図　道跡関連遺物（３）…… 84
第63図　道跡関連遺物（４）…… 85
第64図　暗渠及び出土遺物…… 87
第65図　ピットを伴う杭…… 88
第66図　遺物出土状況図（１）…… 95
第67図　遺物出土状況図（２）…… 96
第68図　近世の遺物…… 97
第69図　中世の遺物（１）（土師器）…… 98
第70図　中世の遺物（２）（青磁）…… 100
第71図　中世の遺物（３）（白磁・青白磁・青花）…… 102
第72図　中世の遺物（４）（国産陶器・須恵器）…… 103
第73図　中世の遺物（５）（瓦質土器・木製品）…… 105
第74図　中世の遺物（６）（石製品）…… 106
第75図　古代の遺物（１）（土師器・須恵器）…… 107
第76図　古代の遺物（２）（須恵器・木製品）…… 108
第77図　弥生・古墳時代の遺構配置図…… 114
第78図　溝状遺構20号…… 115
第79図　溝状遺構20号遺物出土状況図…… 116
第80図　溝状遺構20号出土遺物（１）…… 117
第81図　溝状遺構20号出土遺物（２）…… 118
第82図　溝状遺構20号出土遺物（３）…… 120
第83図　竪穴建物跡１号及び出土遺物…… 121
第84図　竪穴建物跡２号…… 122
第85図　竪穴建物跡２号出土遺物…… 123
第86図　竪穴建物跡３・４号及び３号出土遺物…… 124
第87図　竪穴建物跡５号及び出土遺物…… 125
第88図　集石１号…… 126
第89図　土坑14～16号…… 128
第90図　土坑14号出土遺物（１）…… 129
第91図　土坑14号出土遺物（２）…… 130
第92図　土坑17～20号…… 131
第93図　土坑15～17号出土遺物…… 132
第94図　土坑18～20号出土遺物…… 133
第95図　土坑21～28号…… 134
第96図　土坑29・30号…… 135
第97図　土坑21・22・24・26～30号出土遺物…… 136
第98図　縄文時代晩期～古墳時代遺物出土状況図（１）…… 141
第99図　縄文時代晩期～古墳時代遺物出土状況図（２）…… 142
第100図　木製品等出土状況図（１）…… 143
第101図　木製品等出土状況図（２）…… 144
第102図　古墳時代の遺物（１）（土器）…… 146
第103図　古墳時代の遺物（２）（土器）…… 147
第104図　古墳時代の遺物（３）（木製品）…… 148
第105図　弥生時代の遺物（１）（甕Ⅰ類）…… 149
第106図　弥生時代の遺物（２）（甕Ⅰ類）…… 150
第107図　弥生時代の遺物（３）（甕Ⅱ類）…… 152
第108図　弥生時代の遺物（４）（甕Ⅱ類）…… 153
第109図　弥生時代の遺物（５）（甕Ⅱ類）…… 154
第110図　弥生時代の遺物（６）（甕Ⅱ類）…… 155
第111図　弥生時代の遺物（７）（甕Ⅱ類）…… 156
第112図　弥生時代の遺物（８）（甕Ⅱ類）…… 157
第113図　弥生時代の遺物（９）（甕Ⅱ類）…… 158
第114図　弥生時代の遺物（10）（甕Ⅱ類）…… 159
第115図　弥生時代の遺物（11）（甕Ⅱ類）…… 160
第116図　弥生時代の遺物（12）（甕Ⅱ類）…… 162
第117図　弥生時代の遺物（13）（甕Ⅲ類）…… 163
第118図　弥生時代の遺物（14）（甕Ⅳ類）…… 164
第119図　弥生時代の遺物（15）（甕底部）…… 165
第120図　弥生時代の遺物（16）（壺Ⅰ・Ⅱ類）…… 166
第121図　弥生時代の遺物（17）（壺Ⅱ類）…… 167
第122図　弥生時代の遺物（18）（壺Ⅱ類）…… 168
第123図　弥生時代の遺物（19）（壺Ⅱ類）…… 169
第124図　弥生時代の遺物（20）（壺底部）…… 170
第125図　弥生時代の遺物（21）（鉢）…… 171
第126図　弥生時代の遺物（22）（浅鉢・高坏・蓋）…… 172
第127図　弥生時代の遺物（23）（土製品）…… 173
第128図　弥生時代の遺物（24）（鏃・鋤）…… 174
第129図　弥生時代の遺物（25）（柄）…… 175
第130図　弥生時代の遺物（26）（柄）…… 176
第131図　弥生時代の遺物（27）（梯子）…… 177
第132図　弥生時代の遺物（28）（紡錘板出土状況図）…… 178
第133図　弥生時代の遺物（29）（紡錘板）…… 179/180
第134図　弥生時代の遺物（30）（その他の木製品）…… 181
第135図　弥生時代の遺物（31）（石器）…… 182
第136図　縄文時代晩期の遺物（１）（土器）…… 183
第137図　縄文時代晩期の遺物（２）（土器）…… 184

# 表 目 次


第１表　国道270号関連遺跡の一覧表 …… 13
第２表　周辺遺跡地名表 …… 15
第３表　中津野遺跡低地部・低湿地部基本層序 …… 18
第４表　掘立柱建物跡柱穴計測表 …… 38
第５表　中近世遺構内出土遺物観察表
（土器・土製品）（１）…… 89
第６表　中近世遺構内出土遺物観察表
（土器・土製品）（２）…… 90
第７表　中近世遺構内出土遺物観察表
（土器・土製品）（３）…… 91
第８表　中近世遺構内出土遺物観察表
（陶磁器類）…… 92
第９表　中近世遺構内出土遺物観察表（縄）…… 93
第10表　中近世遺構内出土遺物観察表
（木製品）…… 93
第11表　中近世遺構内出土遺物観察表
（石器・石製品）…… 93
第12表　古代～近世遺物観察表
（土器・土製品）（１）…… 109
第13表　古代～近世遺物観察表
（土器・土製品）（２）…… 110
第14表　古代～近世遺物観察表
（陶磁器類）（１）…… 110
第15表　古代～近世遺物観察表
（陶磁器類）（２）…… 111
第16表　古代～近世遺物観察表
（陶磁器類）（３）…… 112
第17表　古代～近世遺物観察表
（木製品）…… 112
第18表　古代～近世遺物観察表
（石器・石製品）…… 112
第19表　弥生時代～古墳時代遺構内出土遺物観察表
（土器・土製品）（１）…… 137
第20表　弥生時代～古墳時代遺構内出土遺物観察表
（土器・土製品）（２）…… 138
第21表　弥生時代～古墳時代遺構内出土遺物観察表
（土器・土製品）（３）…… 139
第22表　弥生時代～古墳時代遺構内出土遺物観察表
（石器・石製品）…… 139
第23表　縄文時代晩期～古墳時代遺物観察表
（土器・土製品）（１）…… 184
第24表　縄文時代晩期～古墳時代遺物観察表
（土器・土製品）（２）…… 185
第25表　縄文時代晩期～古墳時代遺物観察表
（土器・土製品）（３）…… 186
第26表　縄文時代晩期～古墳時代遺物観察表
（土器・土製品）（４）…… 187
第27表　縄文時代晩期～古墳時代遺物観察表
（土器・土製品）（５）…… 188
第28表　縄文時代晩期～古墳時代遺物観察表
（土器・土製品）（６）…… 189
第29表　縄文時代晩期～古墳時代遺物観察表
（土器・土製品）（７）…… 190
第30表　縄文時代晩期～古墳時代遺物観察表
（土器・土製品）（８）…… 191
第31表　縄文時代晩期～古墳時代遺物観察表
（土器・土製品）（９）…… 192
第32表　縄文時代晩期～古墳時代遺物観察表
（土器・土製品）（10）…… 193
第33表　縄文時代晩期～古墳時代遺物観察表
（木製品）…… 194
第34表　縄文時代晩期～古墳時代遺物観察表
（石器・石製品）…… 194

# 第１章　発掘調査の経過

## 第１節　調査に至るまでの経緯

鹿児島県教育委員会は文化財の保護・活用を図るため，各開発関係機関との間で，事業区域内における文化財の有無及びその取扱いについて協議し，諸開発との調整を図っている。

この事前協議制に基づき，鹿児島県土木部道路建設課（以下，道路建設課）は一般国道270号（宮崎バイパス）道路改築工事に先立って，対象地内における埋蔵文化財の有無について，鹿児島県教育庁文化財課（以下，文化財課）に照会した。

これを受けて，文化財課が平成15年11月に事業予定地内の分布調査を実施したところ，事業区域内に，周知の埋蔵文化財包蔵地である小中原遺跡，中津野遺跡，田布施遺跡，南下遺跡の４遺跡が所在することが判明した。分布調査の結果を受けて，道路建設課，文化財課，鹿児島県立埋蔵文化財センター（以下，埋文センター）の三者で協議した結果，小中原遺跡は平成16年度に本調査を埋文センターが実施した。田布施遺跡については，平成18年１月に文化財課が試掘調査を行い，事業区域内については遺物包含層が削平されていることから調査は実施していない。中津野遺跡，南下遺跡については，平成18年度以降に確認調査及び本調査を埋文センターが実施することとした。年度毎の調査範囲は，第１図に示した。

## 第２節　確認調査・本調査

中津野遺跡は台地部と低地・低湿地部があり，確認調査と本調査を並行して行った。本報告書では，低地・低湿地部について記載した。なお，台地部の調査経過及び成果については，2020年３月に刊行した「中津野遺跡台地部編」を参照いただきたい。

### １　平成18年度　確認調査

平成18年度は，中津野遺跡の確認調査・本調査及び南下遺跡の本調査を行った。低地部では，表面積約1,500㎡の確認調査を行った。調査体制は職員２名，発掘作業員35名で，調査期間は平成18年７月３日から平成18年12月27日までである。調査体制および調査経過の詳細については以下のとおりである。

(1)　調査体制

| | | |
|---|---|---|
| 事業主体 | 鹿児島県土木部道路建設課 | |
| 調査主体 | 鹿児島県教育委員会 | |
| 企画・調整 | 鹿児島県教育庁文化財課 | |
| 調査統括 | 鹿児島県立埋蔵文化財センター | |
| | 所長（平成18年７月31日まで） | 上今　常雄 |
| | 所長（平成18年８月１日から） | 宮原　景信 |
| 調査企画 | 次長兼総務課長 | 有川　昭人 |
| | 次長兼南の縄文調査室長 | 新東　晃一 |
| | 調査第一課長 | 池畑　耕一 |
| | 主任文化財主事兼第一調査係長 | |
| | 兼南の縄文調査室室長補佐 | 長野　眞一 |
| 調査担当 | 文化財主事 | 寺原　徹 |
| | 文化財研究員 | 西園　勝彦 |
| 事務担当 | 総務係長 | 寄井田正秀 |
| | 主査 | 蒲地　俊一 |

(2)　調査経過

発掘調査の経過については，月報・日誌抄等を月ごとに集約して記載する。

８月　Ｄ－19･20区　環境整備・確認調査

９月　Ｄ－19･20区　確認調査

９月以降は南下遺跡の本調査を主に行った。

### ２　平成19年度　確認調査・本調査

平成19年度は，平成18年度に引き続き中津野遺跡の確認調査・本調査及び南下遺跡の本調査を行った。低地・低湿地部では，７本のトレンチを設定し確認調査を行った。一部低湿地部の本調査が必要となったため，表面積約2,000㎡の本調査を行った。５月～12月は職員２名，発掘作業員37名体制，１・２月は職員４名，発掘作業員69名体制で，平成19年５月７日から平成20年２月27日まで調査を実施した。調査体制および調査経過の概要については，以下のとおりである。

(1)　調査体制

| | | |
|---|---|---|
| 事業主体 | 鹿児島県土木部道路建設課 | |
| 調査主体 | 鹿児島県教育委員会 | |
| 企画・調整 | 鹿児島県教育庁文化財課 | |
| 調査統括 | 鹿児島県立埋蔵文化財センター | |
| | 所長 | 宮原　景信 |
| 調査企画 | 次長兼総務課長 | 有川　昭人 |
| | 次長兼南の縄文調査室長 | 新東　晃一 |
| | 調査第一課長 | 池畑　耕一 |
| | 主任文化財主事兼第一調査係長 | |
| | 兼南の縄文調査室室長補佐 | 長野　眞一 |
| | 主任文化財主事 | 井ノ上秀文 |
| 調査担当 | 文化財主事 | 吉井秀一郎 |
| | 文化財主事 | 中村幸一郎 |
| | 文化財研究員 | 西園　勝彦 |
| | 文化財研究員 | 辻　明啓 |
| 事務担当 | 総務係長 | 寄井田正秀 |
| | 主査 | 五百路　真 |
| 調査指導 | 鹿児島大学法文学部教授 | 森脇　広 |
| | 鹿児島大学法文学部准教授 | 本田　道輝 |

福岡市教育委員会文化財部
埋蔵文化財第一課長　山口　譲治

(2)　調査経過

5月～7月　南下遺跡の本調査を中心に実施

8月　1トレンチ（以下，T）（E－18区）・2T（B・C－15・16区）確認調査

9月　3T（D－10・11区）・4T（B・C－10・11区）・5T（C－5・6区）・6T（C－3区）・7T（C－5区）確認調査，Z～E－7～11区　Ⅱ層調査

10月　5T（C－5・6区）・6T（C－3区）・7T（C－5区）確認調査，Z～E－7～11区　Ⅱ層調査，A～F－2～7区確認調査の結果，調査終了

11月　Z～E－7～11区　Ⅱ層調査

5日：県立薩南工業高等学校都市工学科1年生32名現場見学

12月　Z～E－7～11区　Ⅱ層調査

1月　Z～E－7～11区　Ⅱ層調査

23日：福岡市教育委員会　山口　譲治氏現地指導
国立歴史民俗博物館今村　峯雄氏・藤尾　慎一郎氏来跡

2月　Z～E－7～11区　Ⅱ層調査
南下遺跡調査終了

6日：鹿児島大学法文学部准教授　本田　道輝氏現地指導

12日：鹿児島大学法文学部教授　森脇　広氏現地指導
空撮（有）スカイサーベイ九州

3　平成20年度　本調査

平成20年度は，台地部の本調査と併せて低湿地部の表面積約2,000㎡を対象に本調査を行った。職員2名，発掘作業員35名体制で，平成20年9月1日から平成21年2月25日まで調査を実施した。調査体制および調査経過の概要については，以下のとおりである。

(1)　調査体制

事業主体　鹿児島県土木部道路建設課
調査主体　鹿児島県教育委員会
企画・調整　鹿児島県教育庁文化財課
調査統括　鹿児島県立埋蔵文化財センター
所長　宮原　景信
調査企画　次長兼総務課長　平山　章
次長兼南の縄文調査室長　池畑　耕一
調査第一課長　青崎　和憲
主任文化財主事兼第一調査係長
兼南の縄文調査室室長補佐　長野　眞一
調査担当　文化財主事　中村幸一郎
文化財主事　日高　勝博
文化財研究員　西園　勝彦
事務担当　総務係長　紙屋　伸一
主査　鳥越　寛晴
調査指導　鹿児島大学
埋蔵文化財調査室准教授　中村　直子

(2)　調査経過

10～11月　事前準備

12月　A～E－7～11区　Ⅰ・Ⅱ層調査

1月　A～E－7～11区　Ⅱ層調査

2月　A～E－7～11区　Ⅱ層調査終了

5日：空撮（有）スカイサーベイ九州

6日：南さつま市立金峰中学校生徒遺跡見学

9日：奈良文化財研究所　黒坂　貴裕氏来跡

16日：黎明館主任学芸専門員　東　和幸氏来跡

17日：鹿児島大学准教授　中村　直子氏現地指導
南九州市教育委員会上田　耕氏・坂元　恒太氏来跡

25日：日本保存学会（ベンガラ研究会）一行来跡

4　平成21年度　本調査

平成21年度は，台地部の本調査と併せて低湿地部の表面積約1,280㎡を対象に本調査を行った。職員2名，発掘作業員35名体制で，平成21年10月4日から平成22年2月24日まで調査を実施した。調査体制および調査経過の概要については以下のとおりである。

(1)　調査体制

事業主体　鹿児島県土木部道路建設課
調査主体　鹿児島県教育委員会
企画・調整　鹿児島県教育庁文化財課
調査統括　鹿児島県立埋蔵文化財センター
所長　山下　吉美
調査企画　次長兼総務課長　斎藤　守重
次長兼南の縄文調査室長　青崎　和憲
調査第一課長　中村　耕治
主任文化財主事兼第一調査係長
兼南の縄文調査室室長補佐　井ノ上秀文
調査担当　文化財主事　岩屋　高広
文化財主事　井口　俊二
事務担当　総務係長　紙屋　伸一
主査　鳥越　寛晴

(2)　調査経過

10～11月　台地部の本調査

12月　B～F－12～16区　環境整備・表土剥ぎ・Ⅱ層調査

1月　B～E－12～15区，E・F－12～14区　Ⅱ層調査

2月　B～D－13・14区　Ⅱ・Ⅲ層調査
E・F－12～14区　Ⅱ・Ⅲ層調査終了

5　平成25年度　本調査

平成25年度は表面積1,300㎡を対象に，職員2名，発掘作業員34名体制で，平成25年6月5日から平成25年10

月31日まで調査を実施した。調査体制および調査経過の概要については，以下のとおりである。

(1) 調査体制

事業主体　鹿児島県土木部道路建設課
調査主体　鹿児島県教育委員会
企画・調整　鹿児島県教育庁文化財課
調査統括　鹿児島県立埋蔵文化財センター
所　長　井ノ上秀文
調査企画　次長兼総務課　長　新小田　稜
調査課　長　堂込　秀人
第二調査係　長　大久保浩二
調査担当　文化財主事　光永　誠
文化財主事　尾川　満
事務担当　主幹兼総務係長　有馬　博文
主査　池之上勝太

(2) 調査経過

6月　B～E－24～29区　Ⅱ層調査
7月　B～E－24～29区　Ⅱ・Ⅲ層調査
8月　B～E－24～29区　Ⅲ層調査
9月　B～E－24～29区　Ⅲ層調査
10月　B～E－24～29区　Ⅲ層調査終了

6　平成26年度　本調査

平成26年度は表面積790㎡を対象に，職員2名，発掘作業員26名体制で，平成26年8月4日から平成26年12月24日まで調査を実施した。調査体制および調査経過の概要については，以下のとおりである。

(1) 調査体制

事業主体　鹿児島県土木部道路建設課
調査主体　鹿児島県教育委員会
企画・調整　鹿児島県教育庁文化財課
調査統括　鹿児島県立埋蔵文化財センター
所　長　井ノ上秀文
調査企画　次長兼総務課　長　中島　治
調査課　長　前迫　亮一
第二調査係　長　今村　敏照
調査担当　文化財主事　尾川　満
文化財研究員　西野　元勝
事務担当　主幹兼総務係長　有馬　博文
主査　池之上勝太

(2) 調査経過

8月　E・F－7～11区　Ⅱa層調査
D・E－13～16区　Ⅱc・Ⅱd層調査
18日：日置市立和田小学校教諭発掘調査体験
19日：南さつま市立小・中学校社会科部会12名遺跡見学
27日：日置市立和田小学校教諭10名遺跡見学
9月　E・F－7～11区　Ⅱa層調査
D・E－13～16区　環境整備
10月　E・F－7～11区　Ⅱa・Ⅱb・Ⅲa層調査
D・E－13～16区　環境整備
11月　E・F－8・9区　Ⅱa・Ⅲa層調査
E・F－9・10区　Ⅱb・Ⅲa層調査
E・F－10区　Ⅱb層調査
E・F－7・10区　下層確認調査
13日：平成26年度南薩地域農村整備事業協会遺跡見学
18日：県議会企画建設委員会現地視察
12月　E・F－8・9区　Ⅱa・Ⅱb層調査
E・F－8～10区，D・E－13～15区は次年度以降調査に備え養生

7　平成27年度　本調査

平成27年度は表面積820㎡（台地と合わせて表面積2,100㎡）を対象に，職員2名，発掘作業員25名体制で，平成27年11月2日から平成28年3月25日まで調査を実施した。調査体制および調査経過の概要については，以下のとおりである。

(1) 調査体制

事業主体　鹿児島県土木部道路建設課
調査主体　鹿児島県教育委員会
企画・調整　鹿児島県教育庁文化財課
調査統括　鹿児島県立埋蔵文化財センター
所　長　福山　徳治
調査企画　次長兼調査課　長　前迫　亮一
総務課　長　有馬　博文
第二調査係　長　今村　敏照
調査担当　文化財主事　尾川　満
文化財研究員　黒木　梨絵
事務担当　総務係　長　脇野　幸一

(2) 調査経過

11～12月　台地部の調査を実施
12月4日：南さつま市立阿多小学校家庭教育学級9名遺跡見学
1月　B～E－21～24区　Ⅱ層調査
2月　D・E－22・23区　Ⅱb層調査
C・D－22・23区　Ⅱa層調査
3月　B～E－21～24区　Ⅱ層調査
B～E－21～24区は次年度以降調査に備え養生

8　平成28年度　本調査

平成28年度は表面積500㎡を対象に，職員2名，発掘作業員33名体制で，平成28年11月1日から平成29年3月15日まで調査を実施した。調査体制および調査経過の概要については，以下のとおりである。

(1) 調査体制

事業主体　鹿児島県土木部道路建設課
調査主体　鹿児島県教育委員会

企画・調整　鹿児島県教育庁文化財課
調査統括　鹿児島県立埋蔵文化財センター
所　長　福山　徳治
調査企画　次長兼調査課長　前迫　亮一
総務課長　髙田　浩
第二調査係長　今村　敏照
調査担当　文化財主事　尾川　満
文化財研究員　鮫島えりな
事務担当　総務係長　脇野　幸一
調査指導　鹿児島大学名誉教授　森脇　広

(2)　調査経過

11月　B～F－12区　Ⅱ・Ⅲ層調査
C～E－29区　Ⅱ層調査
12月　B～F－12区　Ⅳ層調査
C～E－29区　Ⅱ層調査
D～E－13～15区　Ⅱ層調査
1月　C～E－29区　Ⅱ層調査
D～E－13～15区　Ⅲ・Ⅳ層調査
2月　C～E－29区　Ⅲ層調査
D～E－13～15区　Ⅳ層・砂層調査
1日：南日本新聞社取材
2日：空撮　(有) スカイサーベイ九州
4日：現地説明会（来場者348名）
15日：鹿児島大学名誉教授　森脇広氏現地指導
3月　D～E－13～15区　Ⅳ層・砂層調査
B・C－16区　Ⅱ・Ⅲ層調査

9　平成29年度　本調査

平成29年度は表面積4,000㎡を対象に，職員3名，発掘作業員42名・整理作業員6名体制で，発掘作業を平成29年5月15日から平成30年3月16日まで，整理作業を平成29年11月1日から平成30年3月16日まで調査を実施した。なお，調査の効率化・迅速化を図るために，(株) 埋蔵文化財サポートシステムに測量業務委託を行い，遺構実測・遺物取上を実施した。

(1)　調査体制

事業主体　鹿児島県土木部道路建設課
調査主体　鹿児島県教育委員会
企画・調整　鹿児島県教育庁文化財課
調査統括　鹿児島県立埋蔵文化財センター
所　長　堂込　秀人
調査企画　次長兼調査課長　大久保浩二
総務課長　髙田　浩
第二調査係長　宗岡　克英
調査担当　文化財主事　尾川　満
文化財主事　湯場崎辰巳
文化財研究員　鮫島えりな
事務担当　総務係長　草水美穂子
調査指導　鹿児島大学名誉教授　森脇　広

(2)　調査経過

5月　D・E－12～15区　Ⅲ層調査
B～E－21～23区　Ⅱ層調査
9日：発掘調査概要説明地域住民説明会
6月　D・E－12～15区　Ⅲ層調査
B～E－21～23区　Ⅱ層調査
1日：鹿児島県教育庁教育次長　谷口　浩一氏現地視察
13日：南さつま市立金峰中学校1年生26名遺跡見学
7月　D・E－12～15区調査終了
B～E－21～23区，D・E－19～21区　Ⅱ層調査
7日：(株) バレオ・ラボ　自然科学分析試料現地採取
8月　B～E－21～23区　Ⅲ層上面調査・調査終了
D・E－19～21区，D・F－6～11区
Ⅱ・Ⅲ層調査
8日：南さつま市教育委員会10名遺跡見学
25日：埋蔵文化財養成中級講座受講生8名現地研修
9月　B・E－19～21区，D・F－6～11区　Ⅱ・Ⅲ層調査
13日：文化庁主任文化財調査官　原田　昌幸氏現地指導
10月　B～E－19～21区　Ⅱ・Ⅲ層調査
B～F－12・13区　Ⅱ層調査
11月　B～E－19～21区　Ⅲ層調査及調査終了
B～E－16～18区，B～F－12・13区　Ⅱ層調査
10日：パリノ・サーヴェイ（株）　自然科学分析試料現地採取
21日：阿久根市郷土史会12名遺跡見学
25日：現地説明会（来場者121名）
12月　B～E－16～18区，B～F－12・13区　Ⅱ層調査
1月　B～E－15～18区　Ⅱ・Ⅲ層調査
B～F－11・13区　Ⅱ層調査
9日：パリノ・サーヴェイ（株）　自然科学分析試料現地採取
2月　B～E－15～18区　Ⅲ層調査
B～F－11～13区　Ⅱ層調査
16日：空撮　(株) ふじた
3月　B～F－11～13区　Ⅱ層調査
国道270号（宮崎バイパス）道路改築工事に伴う全ての発掘調査終了

## 第3節　整理・報告書作成

本報告書刊行に伴う整理・報告書作成作業は，平成24年度・平成26年度・平成30年度・令和元（平成31）年度・

令和２年度・令和３年度に埋文センターで行った。

整理・報告書作成作業に関する調査体制及び作業経過は，以下のとおりである。ここでは台地部の作業も合わせて記載する。

１　平成24年度　整理作業

(1)　作成体制

事業主体　鹿児島県土木部道路建設課
調査主体　鹿児島県教育委員会
企画・調整　鹿児島県教育庁文化財課
調査統括　鹿児島県立埋蔵文化財センター
所　長　寺田　仁志
調査企画　次　長　井ノ上秀文
次長兼総務課　長　新小田　稜
調査課　長　堂込　秀人
第二調査係　長　大久保浩二
調査担当　文化財主事　西園　勝彦
文化財主事　益山　郁恵
事務担当　主幹兼総務係長　大園　祥子
主査　池之上勝太

(2)　整理作業の経過

平成24年度の整理作業は，平成18～21年度に出土した遺物の水洗い，注記，土器接合，土器・石器・木器の分類，石器の実測を行った。

４月　図面整理，遺物水洗い
５～８月　図面整理，遺物水洗い，遺物注記，土器接合，木器分類
９月　図面整理，遺物注記，石器接合・実測，土器接合，木器分類
10月　図面整理，遺物注記，石器接合・実測，土器接合
11月　図面整理，石器接合・実測，土器接合，石器実測委託，自然科学分析委託
12月　図面整理，石器接合・実測，土器接合
１・２月　図面整理，石器接合・実測，土器接合，木器点検
３月　図面整理，石器接合・実測，土器接合，収納

２　平成26年度　整理作業

(1)　作成体制

事業主体　鹿児島県土木部道路建設課
調査主体　鹿児島県教育委員会
企画・調整　鹿児島県教育庁文化財課
調査統括　鹿児島県立埋蔵文化財センター
所　長　井ノ上秀文
調査企画　次長兼総務課　長　中島　治
調査課　長　前迫　亮一
第二調査係　長　今村　敏照
調査担当　文化財主事　尾川　満
文化財研究員　西野　元勝
事務担当　主幹兼総務係長　有馬　博文
主査　池之上勝太

(2)　整理作業の経過

平成26年度整理作業は，平成25年度に出土した遺物の水洗い，注記，土器接合，土器・石器・木器分類，石器の実測を行った。

４～７月　遺物水洗い，遺物注記，土器接合
８月　遺物注記，土器接合，遺物分類，木器選別
11・12月　土器接合，遺物分類
１月　土器接合，遺物分類，土器実測
２・３月　遺物実測

３　平成30年度　整理作業

(1)　作成体制

事業主体　鹿児島県土木部道路建設課
調査主体　鹿児島県教育委員会
企画・調整　鹿児島県教育庁文化財課
調査統括　鹿児島県立埋蔵文化財センター
所　長　堂込　秀人
調査企画　次長兼調査課　長　大久保浩二
第二調査係　長　宗岡　克英
調査担当　文化財主事　湯場崎辰巳
文化財研究員　鮫島えりな
事務担当　総務係　長　草水美穂子
整理指導　文化庁文化財部美術学芸課
主任文化財調査官　原田　昌幸
京都橘大学文学部教授　一瀬　和夫
同志社大学教授　水ノ江和同

(2)　整理作業の経過

平成30年度整理作業は，平成26～29年度に調査を実施した出土遺物の水洗い，注記や台地部の遺構・遺物の選別・分類，遺物の実測を中心に行った。

４月　遺物水洗い，遺物注記，図面整理
５月　遺物水洗い，遺物注記
６月　遺物水洗い，遺物注記，土器接合
21・22日：文化庁文化財部美術学芸課主任文化財調査官　原田　昌幸氏　整理指導
７月　遺物水洗い，遺物注記，土器接合
８月　遺物注記，土器接合，遺物分類，木器選別
９月　土器実測，遺物注記
10月　土器実測，遺物注記，石器分類
11月　土器実測，遺物注記，石器分類，木製品写真撮影
２・22日：パリノ・サーヴェイ（株）　自然科学分析試料採取
12月　土器実測，拓本，遺物注記
１月　土器実測，拓本，遺物注記，遺物分類，石器実測

2月　土器実測，拓本，遺物注記，石器実測，台帳作成

14・15日：京都橘大学文学部教授　一瀬　和夫氏整理指導

18・19日：明治大学黒曜石研究センター客員教授　能代　修一氏資料調査

3月　文章作成，レイアウト，台帳整理

14日：同志社大学教授　水ノ江　和同氏整理指導

※石器実測委託　9月

自然科学分析委託　10月

**4　令和元（平成31）年度　整理・報告書作成作業**

**(1)　作成体制**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事業主体 | 鹿児島県土木部道路建設課 | | |
| 調査主体 | 鹿児島県教育委員会 | | |
| 企画・調整 | 鹿児島県教育庁文化財課 | | |
| 調査統括 | 鹿児島県立埋蔵文化財センター所 | 長 | 前迫　亮一 |
| 調査企画 | 次長兼総務課 | 長 | 野間口　誠 |
| | 調査課 | 長 | 中村　和美 |
| | 第一調査係 | 長 | 宗岡　克英 |
| 調査担当 | 文化財主 | 事 | 大保　秀樹 |
| | 文化財主 | 事 | 湯場崎辰巳 |
| | 文化財研究 | 員 | 鮫島えりな |
| 事務担当 | 主幹兼総務係 | 長 | 草水美穂子 |
| 整理指導 | 天理大学客員教授 | | 深澤　芳樹 |
| | (公財)広島県教育事業団事務局理蔵文化財調査室 | | 伊藤　実 |

**(2)　整理作業の経過**

令和元(平成31)年度整理作業は，台地部の調査で出土した遺物の実測・トレース，報告書作成に係る写真撮影，レイアウト作成等の作業や低地・低湿地部の図面整理や遺物の接合・復元，遺物分類，実測を中心に行った。

4・5月　土器実測，拓本，土器接合，遺物分類

6・7月　トレース，レイアウト，図面整理，接合，分類

8月　トレース，レイアウト，写真撮影，図面整理，接合・分類

9月　トレース，図面整理，接合・分類

9日：天理大学客員教授　深澤　芳樹氏整理指導

(公財)広島県教育事業団事務局　伊藤　実氏整理指導

愛媛大学准教授　柴田　昌児氏資料調査

10月　レイアウト，写真撮影，遺物分類

11月　レイアウト，文章作成，図面整理，遺物分類，土器復元

12・1月　校正，遺物分類，土器実測，土器復元

2月　収納作業，遺物分類，土器実測，土器復元

3月　遺物整理，『中津野遺跡　台地部編』刊行

※石器実測委託　7月，9月，10月

木器実測・保存処理委託　9月

自然科学分析委託　7月，9月，10月

**5　令和２年度　整理・報告書作成作業**

**(1)　作成体制**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事業主体 | 鹿児島県土木部道路建設課 | | |
| 調査主体 | 鹿児島県教育委員会 | | |
| 企画・調整 | 鹿児島県教育庁文化財課 | | |
| 調査統括 | 鹿児島県立埋蔵文化財センター所 | 長 | 前迫　亮一 |
| 調査企画 | 次長兼総務課 | 長 | 野間口　誠 |
| | 調査課 | 長 | 中村　和美 |
| | 第二調査係 | 長 | 横手浩二郎 |
| 調査担当 | 文化財主 | 事 | 上浦　麻矢 |
| | 文化財研究 | 員 | 鮫島えりな |
| | 文化財研究 | 員 | 倉元　良文 |
| 事務担当 | 主幹兼総務係 | 長 | 山下　勝史 |
| 整理指導 | 元福岡市文化財部次 | 長 | 山崎　純男 |
| | 鹿児島大学埋蔵文化財調査センターセンター | 長 | 中村　直子 |

**(2)　整理作業の経過**

令和２年度整理作業は，低地・低湿地部の縄文時代晩期～近世の図面整理や遺構図の点検・遺構配置図の作成，遺物の接合・復元，遺物分類，実測，拓本，トレース，縄文時代前期～後期の分類・拓本を中心に行った。

4月　古代～近世実測遺物選別，未選別遺構内遺物分類整理，遺構内遺物実測，遺構内遺物補強復元

5月　遺構内遺物実測，遺構内遺物未選別分整理，遺構内遺物補強復元，包含層遺物未選別分整理，包含層遺物補強復元，木製品整理，木製品実測図整理

6月　遺構内遺物実測，拓本，遺構内遺物復元及び補強，古代～近世包含層遺物未選別分整理，包含層遺物補強復元，出土遺物整理，円盤形土製品整理，石器選別

7月　遺構内遺物拓本・拓貼，遺構内遺物復元及び補強，中世・近世包含層遺物実測及び補強，円盤形土製品整理，図面整理，弥生底部分類，縄文晩期～古墳遺物抜出・分類，実測遺物抜出，石器整理・入力，原稿執筆

8月　遺構配置図作成，中世・近世包含層遺物実測及び復元・補強，遺構内遺物拓本・拓貼，図面整理，原稿執筆，石器実測委託準備

9月　遺構配置図作成，中世・近世包含層遺物実測及び復元・補強，縄文土器分類，図面整理，縄文・弥生・古墳包含層遺物分類，原稿執筆，石器実測委託準備，中世・近世包含層遺物拓本・拓貼

10月　遺構図・配置図作成，図面整理，土器・木製品

実測委託準備，縄文・弥生土器実測及び復元・補強，縄文土器分類，原稿執筆，遺物台帳整理

11月　遺構図・配置図作成，縄文土器分類，弥生・古墳土器実測，縄文土器復元・補強，図面整理，原稿執筆，遺物台帳整理，石器実測委託準備，原稿執筆

12月　遺構図・配置図作成，図面整理・レイアウト，弥生・古墳土器実測，縄文土器復元・補強，原稿執筆，遺物台帳整理，遺構台帳修正

9日：鹿児島大学埋蔵文化財センターセンター長　中村　直子氏整理指導

1月　遺構図・配置図作成，図面整理・レイアウト，縄文土器分類・補強，土製品実測・拓本，原稿執筆，遺構台帳修正

2月　土製品拓酷，縄文土器分類・実測・拓本，原稿執筆，遺構台帳修正

3月　遺構図・配置図作成，図面整理・レイアウト，実測図チェック，原稿執筆，遺構台帳修正

16日：元福岡市文化財部次長　山崎　純男氏整理指導

※　木製品実測委託　10月
　土器実測委託　10月
　石器実測委託　6月・8月・10月
　自然科学分析　10月

**6　令和3年度　整理・報告書作成作業**

**(1)　作成体制**

事業主体　鹿児島県土木部道路建設課
調査主体　鹿児島県教育委員会
企画・調整　鹿児島県教育庁文化財課
調査統括　鹿児島県立埋蔵文化財センター

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 所長 | 中原　一成 |
| 調査企画 | 次長兼総務課長 | 大口　浩嗣 |
| | 調査課長 | 寺原　徹 |
| | 第二調査係長 | 西園　勝彦 |
| 調査担当 | 文化財研究員 | 鮫島えりな |
| | 文化財研究員 | 倉元　良文 |
| 事務担当 | 主幹兼総務係長 | 山下　勝史 |
| 整理指導 | 同志社大学教授 | 水ノ江和同 |
| | 鹿児島県考古学会会長 | 本田　道輝 |
| | 東海大学准教授 | 木村　淳 |

報告書作成指導委員会　令和3年6月3日ほか4回
寺原調査課長ほか6名
報告書作成検討委員会　令和3年11月29日ほか5回
中原所長ほか6名

第3分冊は令和4年1月19日に報告書作成検討委員会を実施した。報告書刊行は，令和4年度に行う予定である。

**(2)　整理作業の経過**

令和3年度の整理作業は，遺構図の点検，遺構配置図の作成，各時代の出土遺物の実測・拓本，トレース，レイアウト，観察表作成，報告書作成に係る写真撮影，原稿執筆及び編集・校正作業を中心に行った。

4月　遺構図点検・配置図作成，図面整理，縄文土器の分類・実測・拓本及びレイアウト，土器の復元及び補強，石器実測及びレイアウト，遺物整理，原稿執筆

5月　遺構図・遺構配置図修正，レイアウト，遺物出土状況図作成，縄文土器分類・実測・拓本・トレース・復元・補強，遺物整理，遺物観察表作成，原稿執筆

6月　遺構図・遺構配置図修正，レイアウト，遺物出土状況図作成，縄文土器実測・拓本・復元・補強，出土遺物のレイアウト，原稿執筆

7月　遺構図・遺構配置図修正，レイアウト，遺物出土状況図作成，縄文土器実測・拓本・トレース，復元・補強，出土遺物のレイアウト，石器レイアウト，原稿執筆

26・27日：同志社大学教授　水ノ江　和同氏整理指導

28日：鹿児島県考古学会会長　本田　道輝氏整理指導

8月　縄文土器分類・実測・拓本・復元・補強・レイアウト，第1分冊校正，石器レイアウト，原稿執筆

9月　縄文土器分類・実測・拓本・トレース・復元・補強・レイアウト，第1分冊校正，石器レイアウト，原稿執筆

10月　縄文土器実測・拓本・トレース・復元・補強・レイアウト，原稿執筆，第2分冊編集作業

11月　縄文土器及び石器のレイアウト，原稿執筆，遺物写真撮影，第2分冊編集作業，原稿執筆

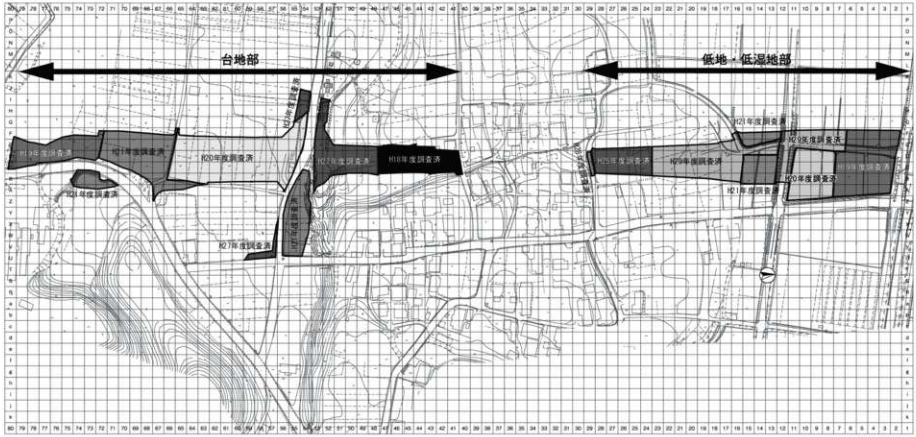
12月　入札準備，第1・2分冊編集作業，自然科学分析編集，写真図版作成

1月　図面・遺物収納準備，報告書校正，遺物写真撮影，第3分冊編集作業

2月　図面・遺物収納，報告書校正，第3分冊編集作業

3月　報告書納品（第1・第2分冊）

※　土器実測委託　4月




第１図　調査区全体範囲図

# 第２章　遺跡の位置と環境

## 第１節　地理的環境

中津野遺跡は，鹿児島県南さつま市金峰町に所在する。遺跡の立地する金峰町は，同市の北部に位置する。西は東シナ海に面し，南北40km に及ぶ吹上砂丘が形成されている。東は金峰山（636m）を主峰とした標高200m を超える山々が続く山岳地帯が占めており，小峯の起伏が多く，わずかに耕地が点在している。金峰山系は主に白亜系の砂岩・泥岩から構成される四万十層群であり，各所で第三紀花崗岩閃緑岩が貫入し，金峰山西麓に露出している。南には沖積平野の南薩平野が広がり，万之瀬川が流れ，比較的緩やかな丘陵地が続く地形である。北には万之瀬川水系堀川支流の境川が流れ，堀川は長谷川とともに金峰町域を貫流し，万之瀬川と合流し東シナ海に注ぐ。

中津野遺跡のうち，今回調査を実施した箇所は，金峰山西側裾野に形成された尾下台地と中岳西部に延びる中津野台地の間に流れる境川の河川氾濫により形成された沖積地に位置する。遺跡北西側には平野が一望でき，かつては一帯に入り江が展開していたことが推測できる。

遺跡の周辺には，境川を挟んだ北側に南下遺跡や筆付遺跡が所在する。また，遺跡の南西にあたる万之瀬川沿いには，持躰松遺跡や芝原遺跡，波畑遺跡が所在する。

## 第２節　歴史的環境

南さつま市金峰町には，約130か所の埋蔵文化財包蔵地が所在しており，鹿児島県の考古学研究上欠かすことのできない遺跡が多数存在する。境川流域には，県営かんがい排水事業に伴う調査によって発見された筆付遺跡や国道270号（宮崎バイパス）道路改築工事に伴う調査によって本遺跡と南下遺跡が発見されている。また，今回の調査地点は，河口貞徳氏によって1950年（昭和25年）に発掘調査が行われ，弥生終末期の標式土器である中津野式土器が出土した地点の北部に位置する。また，万之瀬川の中小河川改修事業に伴う発掘調査によって，持躰松遺跡や芝原遺跡など，縄文時代から近世にかけての大規模な複合遺跡が複数発見されている。農業開発総合センター遺跡群や山野原遺跡からは旧石器時代の遺構・遺物も発見され，この地域の先史・古代の様相がさらに明らかになりつつある。以下，周辺の遺跡について述べる。

### １　旧石器時代

尾下台地に立地している山野原遺跡（金峰町）では，赤色頁岩製の厚手の剥片を素材とした細石刃核１点と細石刃２点が出土している。

### ２　縄文時代

**草創期**

椎ノ原遺跡（加世田）からは，連穴土坑（煙道付き炉穴）や集石，配石炉などの遺構群とともに多くの隆帯文土器や石器が発見されている。特に，丸ノミ状の磨製石斧は椎ノ原型と称されるほど特徴的である。平成９年に国指定史跡に指定されている。

**早期**

小中原遺跡（金峰町）では，前平式土器の円筒形・角筒形土器がまとまって出土している。特に，角筒形土器は，上半分は角筒形，下半分は円筒形を呈しているものもあり，角筒形土器の出現を考える上で重要な資料となっている。

**前期**

中津野遺跡の西側に位置する阿多貝塚（金峰町）は保存状態が良好であり，「阿多Ｖ類土器」（西唐津式土器）と称された土器の発見など南九州前期貝塚の研究・究明にとって貴重な遺跡であり，令和２年に国指定史跡に指定されている。また，阿多貝塚の南側台地には，轟式土器を主体とする上焼田遺跡（金峰町）が所在している。貝の集積や人骨２体が検出されたほか，多くの石鏃や玦状耳飾が出土している。さらに，上水流遺跡（金峰町）は曽畑式土器が単独で出土しており，石器組成も含めて良好な資料となっている。

**中期**

上水流遺跡からは大型の集石と春日式土器が出土しており，河川隣接地での生活のあり方を考える上で極めて重要な遺跡である。また，前期末から中期初頭とされる深浦式土器も多量に出土している。

**後期**

芝原遺跡（金峰町）では，大量の指宿式土器や後期前半期の土器が多く出土している。また，石鏃や鋸歯状尖頭器，石斧など，多種多様な石器が出土している。１点だけ出土した蛇紋岩製の玦状耳飾も県内では出土例が少なく貴重な事例である。また，本県では類例のない足形を呈する土製品が出土しており，隣接する波畑遺跡（金峰町）からの出土資料と接合したことも注目される。

**晩期**

上加世田式土器の標式遺跡である上加世田遺跡（加世田）がある。大型の土坑，祭祀をうかがわせる土偶や軽石製岩偶・石棒や勾玉・管玉・小玉などの垂飾品など，様々な遺構・遺物が発見されている。

### ３　弥生時代

下原遺跡（金峰町）では，縄文時代晩期終末から弥生時代早期の刻目突帯文土器に伴って朝鮮半島系の無文土

器・糎瓶土器・石包丁が出土している。

弥生時代前期の代表的な遺跡である高橋貝塚（金峰町）は，万之瀬川の支流堀川の右岸，洪積世砂丘上にある。昭和37（1962）年・38（1963）年に河口貞徳氏によって発掘調査が実施された。調査の結果，縄文時代晩期の夜臼式土器と弥生前期の高橋Ⅰ式土器が共伴し，南海産のゴホウラ貝やオオツタノハ貝を素材とした貝輪が出土した学史的に重要な遺跡である。平成18（2006）年には鹿児島国際大学が隣接地の高橋遺跡発掘調査を実施し，弥生時代中期の可能性の高い木棺墓が３基報告されている。また，下小路遺跡（金峰町）は，弥生時代中期の須玖式土器を用いた合口甕棺が検出された埋葬遺跡で，棺内の人骨にはゴホウラ製の腹面貝輪が着装されていた。松木薗遺跡（金峰町）では弥生時代後期の環濠の可能性のあるＶ字形の大溝が松木薗式土器を伴って発見されている。

中津野遺跡は，昭和25（1950）年に河口貞徳氏によって調査されている。本報告書調査範囲から東に約700m，標高30mの台地上の中津野集落の県道20号に沿った個人宅の敷地の調査を行っている。その際に，床面が３段構造になる竪穴住居跡が発見され，最下段である３段目からは完形品の土器が40個体出土した。中津野式土器の標式遺跡でもある。中津野式土器に関しては，弥生時代終末に位置づける考えの他に一部は古墳時代に入るものを含むとして，明確な位置づけはなされていない。このため現状では，弥生時代終末から古墳時代初頭の土器として認識されている。

### 4　古墳時代

古墳時代の遺跡としては，加世田小湊にある奥山古墳（六堂会古墳）が特筆される。この遺跡は昭和６（1931）年に発見され，石棺内部には赤色顔料が塗られており，ガラス玉や長さ180cmの鉄剣，刀子が副葬されていた。平成17（2006）年に実施された鹿児島大学の再調査の結果，周溝の一部と考えられる遺構が発見され，４世紀代の古墳である可能性が高いことが示された。白糸原遺跡（金峰町）では竪穴住居跡が19軒検出され，辻堂原式土器から笹貫式土器にかけての集落とされている。上水流遺跡からは竪穴住居跡が11軒検出されている。遺構内から初期須恵器の出土がみられた。また，中津野遺跡に隣接する南下遺跡では，２条の杭列に伴い木製品（二叉鍬・三叉鍬・ナスビ形鍬）が出土している。「ナスビ形」の鍬については，着柄した状態で出土した貴重な資料である。

### 5　古代

小中原遺跡では，多くの掘立柱建物跡と「阿多」という文字がヘラ書きされた土師器，焼塩壺，帯金具などが出土しており，阿多郡衙の可能性が考えられている。山野原遺跡でも，多くの掘立柱建物跡と土師器・須恵器をはじめ赤色土器，黒色土器，墨書土器，ヘラ書土器，製塩土器などが発見されている。また，祭祀遺構や土師器焼成遺構の可能性が考えられる遺構が発見されており，在地豪族に関わる施設であった可能性が考えられている。芝原遺跡，持林松遺跡（金峰町），上水流遺跡でも墨書土器をはじめ多数の遺物が発見されている。中岳山麓古窯跡群（金峰町）は９世紀（平安時代）ごろの須恵器窯跡群で，須恵器窯跡としては日本列島でもっとも南に位置している。この窯で製作された須恵器は南九州全域から南西諸島まで分布しており，当時の地方窯としては広域的で，古代日本の国の境界領域を横断して流通していた可能性が指摘されており，熊本県荒尾市荒尾窯跡群の製品との類似性が高いことから，人的・物的な交流があったと考えられている。近年では，平成26（2014）年から数次にわたって鹿児島大学埋蔵文化財調査センターが中心となり調査が行われている。

### 6　中世

中世には，ほぼ全域で島津荘が成立した薩摩国にあって，阿多郡は唯一，大宰府領であった。その後13世紀前半には金峰町が属する阿多郡は阿多氏・鮫島氏などによる支配を受け，加世田が属する加世田別府は別符氏・塩田氏などによって支配を受けることとなる。山城跡も多く所在しており，上ノ城跡・別府城跡・牟礼ヶ城跡・貝殻崎城跡などで発掘調査が行われている。白糸原遺跡では，中世末から近世の土坑墓が24基検出された。土坑墓１基と土坑３基から南海産の夜光貝が出土している。また，竪穴建物跡や双魚文青磁なども確認された。

古代から中世においては，万之瀬川流域の遺跡群が特に注目される。全国各地の窯で焼かれた陶器類や，中国からの輸入陶磁器類などが多量に出土した持林松遺跡や芝原遺跡を中心に，広範な交流の拠点であった遺跡群であり，万之瀬川下流域の中世的景観を明らかにする貴重な資料である。

### 7　近世

近世においては，前述の上水流遺跡の大溝から16・17世紀頃の肥前系陶磁器と初期の薩摩焼（苗代川系）等が，福建・広東及びベトナム産の甕・壺類といった貯蔵器とともに出土している。外城制度（天明４［1784］年，外城から郷に改称）に関しては，行政の中心である地頭仮屋が阿多と田布施，加世田の３か所に設置され，武士の居住区である麓集落はその周辺にあった。商人の居住区である野町は，金峰地域では阿多公民館付近と池辺に，加世田地域では川畑の聖徳寺付近にあった。

### 8　近現代

交通網に目を向けると，近世の街道「伊作筋」が本遺跡の西を通っている。現在は鹿児島県枕崎市からいちき串木野市に至る国道270号線となっており，薩摩半島の西岸を縦断している。現在は，万之瀬橋がかけられてい